

かわはらのみやあちわじんじゃほんでん せっしやはちまんじんじゃほんでん
 川原宮謁磐神社本殿、摂社八幡神社本殿

つけたり むなふだ
 附 棟札 17 枚

<概要>

員 数	2 棟		
時 代	川原宮謁磐神社本殿	江戸時代	(1702 年)
	摂社八幡神社本殿	江戸時代	(1668 年)
	附 棟札 (17 枚)	室町時代～現代	(1394～1932 年)

川原宮謁磐神社は、矢作川支流の阿摺川左岸に接する御蔵町栗下シの山麓に位置する。
 棟札¹によると、もと「川原ノ宮」あるいは「白鳥大明神」と称す阿摺郷の総氏神で山上に
 あったところ、兵乱により社殿を焼失した額田郡東阿知和村（現岡崎市）の謁磐神社から
 御神体を移して合祀し、明徳5年（1394）に「謁磐宮大明神」として造立、のちの宝暦13
 年（1763）に山麓へ移転した記録がある。現在の本殿は、元禄15年（1702）に上棟し翌年
 に遷宮が行われており、山麓へ移転した翌年、明和元年（1764）には「社且西向ヲ南向ニ
 直ス」とあり境内を整備したことがわかる。これは現存する石鳥居の額束²に明和元年の銘
 があることから裏付けられる。また、摂社の八幡神社本殿は移転前の寛文八年（1668）
 造立で、川原宮謁磐神社本殿とともに、これらの造営および修繕に関わった工匠等が明徳
 5年（1394）から昭和7年（1932）までの棟札17枚に記されており歴史的価値は高い。

川原宮謁磐神社本殿は、足助八幡宮本殿に倣って復古的に建造したと考えられ、中世か
 ら近世へと地域の大工による特異な細部意匠や技法の継承がみられるとともに、独創的な
 彩色を伝える貴重な建築である。摂社八幡神社本殿は、一間社³見世棚造⁴としては比較的規
 模が大きく、古式な細部意匠をもち簡素でありながら、内部は格天井⁵など豪華な仕上げを
 施した造りで、寛文当初の姿をよく残している。ともに建築年代や工匠が明確であり、か
 つ宝暦13年（1763）の移転や明和元年（1764）の境内整備を経て、現在まで一体的に保存
 され、良好な境内の景観に寄与している。

これらのことから両殿は、建築年代や工匠ほか造営や修繕、境内整備等を記録した棟札
 17枚とともに、地域的、歴史的価値は高い。

1 建物の建築・修築の記録・記念として、棟木・梁など建物内部の高所に取り付けた札。
 2 鳥居の上部の横材とその下の貫(ぬき)の中央に入れる束。
 3 神社本殿で、母屋正面の柱間が一つのもの。
 4 きわめて小規模の社殿で、土台の上に組まれ、正面に階段のないもの。
 5 木を格子に組んで、それに板を張った天井。



川原宮謁磐神社本殿外観（左奥）、摂社八幡神社本殿外観（右）



川原宮謁磐神社本殿正面及び東側面



川原宮謁磐神社本殿身舎正面

(画像はすべて愛知県提供)